

2007. 3. 15

# 葬祭接客マナー競う

全日本組合  
コンテスト  
最高賞に木場さん(鹿児  
島市)

葬祭の価格やサービスについて十分な情報提供を行うことなどを目指した「葬祭コーディネーターコンテスト」が十四日、鹿児島市のホテルであった。全国から集まった葬祭業者八人が接客マナーやサービス内容に関する知識を競った。

全日本葬祭業協同組合連合会(事務局・東京)の青年部会主催による研修会の一環。コンテストは、妻に先立たれ、定年退職を迎えた男性が自分の葬儀について相談に来たという設定で、これまでの人生や葬儀の希望などについて本人が書き記す「エンディングノート」を分かりやすく説明したかや接客マナーなどが審査された。

善社(鹿児島市)の木場勉さん(五〇)は「専門の人たちを前に緊張した。今後も遺族の方が気づかないところをサポートできるよっ心がけたい」と気持ちを更新にした様子。鹿児島県葬祭業協同組合の永田健一青年部長(四〇)は「生活様式が変わる中で葬祭のあり方も変わってきている。今回を機に、ホテル並みの接客



葬祭コーディネーターコンテストで最優秀賞に選ばれた木場勉さん(右)の接客

＝14日、鹿児島市山之口町

マナーを目指しレベルを上げていきたい」と話した。